



鉱物研究家 福井龍幸さん

今回は水口町在住で鉱物の採集や鉱山跡の探索を行われている福井龍幸さんにお話を伺いました。

トパーズです。トパーズは11月の誕生石として有名な宝石の一種です。大津市の田上山で採集したのです。

お気に入りの鉱石は？

信楽の山中にあるアンチモン（輝安鉱）の鉱山跡を見つけた時が非常に嬉しかったです。明治時代に採掘された古い小さな鉱山で、当時を知る人もいないので文献や経験などから見つけたので大変嬉しかったです。

活動で嬉しかったこと、印象に残ったことは？

小学生の頃、近所の子どもが集まって山で水晶採りをしていました。それが私と鉱物の出会いです。鉱物採集は「宝探し」のようなもので、目当ての鉱物を見つけた時の嬉しさが忘れられず、ずっと続けています。

今後の活動・目標は？

これまではトパーズや緑柱石など光っていて美しい鉱石に注目していましたが、最近人間と鉱物の関わりに着目して研究していこうと思っています。ひとりでも多くの方、特に子どもさんに鉱物好きになっていただければという思いです。



※鉱物採取を行う際は、ルールとマナーを守り行いましょう。



鉱物に魅せられて60年

鉱物に興味を持ったきっかけは？ 鉱物採集の楽しさは？

が、直径5センチほどの大きなものを見つけました。「川流れ」と言って沢で見つけたもので、一部の面が少し摩耗しているのが特徴ですが、透明で美しい石です。

情報交流広場

となりまち



伊賀市 ミュージアム青山讃頌舎 夏の通常展「伊賀に暮らし 一穂月明の身近な風景」

伊賀にアトリエを構えた水墨画家・穂月明（1929-2017）が描いた近郊の風景や日常の情景を中心に、作品をスケッチした場所の写真なども展示して、穂月明の視線に迫ります。画家が観た美しい伊賀をお楽しみください。



【とき】8月22日（日）まで
※開館時間：午前10時～午後4時30分（最終入館：午後4時） ※火曜日休館

【ところ】伊賀市 ミュージアム青山讃頌舎（伊賀市別府718-3）

【料金】一般 300円（高校生以下無料）

【問合せ】伊賀市文化交流課

TEL0595-22-9621

青山讃頌舎 TEL0595-52-2100



鈴鹿峠自然の家 天文台「童夢」

～豊かな自然の中で、星空を眺めてみませんか？～

美しい星空が広がる豊かな自然に囲まれた鈴鹿峠自然の家天文台「童夢」。天文台には、口径400ミリメートルの反射望遠鏡と口径115ミリメートルの屈折望遠鏡を備えており、月に1回の無料開放や季節ごとの星空観察会を行っています。

※無料開放日など詳しくは、市ホームページをご覧ください。

※雨天・曇天の場合は中止となります。
【ところ】鈴鹿峠自然の家天文台「童夢」（亀山市関町杓掛123）

【問合せ】亀山市教育委員会事務局生涯学習課社会教育グループ（TEL0595-84-5057）

※無料開放当日のみ（TEL090-5114-1670）



元気なまちかど



甲賀の素晴らしさ伝える 郷土料理集完成

市内の特産品を使用した料理レシピ本「忍者の里 甲賀 七彩物語郷土料理」が発刊されました。

制作は、多くのボランティアで活動されている「NPO法人地域で創る土曜日夢の学習」の皆さん。

旧甲賀郡の7町の時に同様の本を発行されたものを、新たに5町で編集されました。郷土料理の素晴らしさを伝えるだけでなく、ふるさとの味を通して、家庭の絆や地域での交流が深まればとの思いで制作されたそうです。

地域の特産品が多くのご家庭の食卓に並べば良いですね。



編集に関わった皆さん

新たに発刊された料理集

短冊に託すそれぞれの思い ～矢川神社の七夕まつり～

毎年7月7日の七夕の日に実施されている矢川神社の「七夕まつり」。雨ごい祈願をする神社の由来のとおり、今年は雨の降る中ではありましたが、地域の保育園や介護施設などからそれぞれの願いが書かれた短冊が付けられた笹飾りが奉納されました。

短冊には「コロナが終息してお出かけができますように」「100歳まで元気に暮らせますように」といった多くの願いが書かれていました。

昨年の中止に続き、今年も伝統の手筒花火や屋

過去の「やきもの文化」から “学び” 未来へつなぐ

10月に開催が予定されている第4回信楽まちなか芸術祭「シガラキマニア2021」では、「学び」をテーマにした企画展示の準備が進められています。

NHK連続テレビ小説「スカーレット」にも描かれたように、1960年代から80年代は火鉢から庭園陶器や建材、植木鉢に移行する時代で、すでに信楽窯業技術試験場では次の時代を見越した海外輸出のための新たな試作品も制作されていたようです。

シガラキマニア2021では、この時代にスポットを当てた作品や過去を思い起こす映像作品が展示される予定で、過去の信楽を見つめ直すことで、新たな価値を創造し、未来へつないでいくための機会となります。

陶器を通してまちづくりに取り組む実行委員でこの企画のリーダー石野啓太さんは「60年代から80年代の信楽は産地としての動きが活発であり、チャレンジ精神あふれる「やきもの文化」から、今後につながるヒントが得られるのではないかと思います。」と話されました。

シガラキマニア2021の開催を通して、今後信楽焼がどのように未来に引き継がれていくのか、みんなの期待が高まります。

「この年代は興味深い作品が多いんです」と話す石野さん（信楽窯業技術試験場）



願いが届きますように



境内に奉納された笹飾り



台などは残念ながら行われませんでしたでしたが、実行委員の皆さんは「来年こそは絶対に復活させたい」と話されていました。

短冊に託された皆さんの願いがきっと叶いますように。